勿凝学問 215

さて、この問題をどう解く？
医療介護の機能強化の道筋

平成 21 年 1 月 11 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

以前から言っていたのであるが、誤解を受けるかもしれないから、この場には書かなかったことがある。それは、医療介護の機能強化は、不況時にしか実現できないということである。好景気のために民間の労働市場が逼迫しているときに、労働市場から医療介護にマンパワーを移動させることは難しい。そういうことは考えればすぐに予測できることであるし、ヨーロッパの経験からも学ぶことができる。先日、東洋経済の編集者に次のようなメールを送ったので、そのことに触れようと思う。

> 先月の記事「社会保障が雇用を支え内需主導型の成長をもたらす」をⅡ巻改訂版の序論で紹介させていただきたい、という新年早々のお願いをご快諾いただきましてありがとうございました。
> あの記事は、非常にコンパクトにわたくしが「今」言いたいことがまとめられておりますので、感謝しております。
>
> 「今」といっても、昔から言っていることですけど、わたくしの言う積極的社会保障政策は、「市場」が元気である時には実現不可能なので、まさに「今」なんですね。
>
> 医療介護の機能強化を図るためには、マンパワーが必要です。マンパワーは、民間と競合しますから、民間に元気があって労働市場が逼迫している限り、社会保障の機能強化は難しいんです。
>
> 実際 「積極的社会保障政策と日本の歴史の転換」の論文の準備は、2002 年からの景気回復前の不況期からはじめていました。

そして、上記、『東洋経済』2008 年 12 月 6 日号「社会保障が雇用を支え内需主導型の成長をもたらす」の最後の文章は、「これからは積極的社会保障政策が、内需主導型の成長戦略として合理性を持つという認識が広まるだろう」で終わっていて、この文章に落ち着く過程で、わたくしが編集者に出したメールは、次のような内容であった。

積極的社会保障政策は、「・・・すべきだ」と強調しなくても、自然とその方向に収斂していくアイデアですので、「合理性を持つという認識が広まるだろう」とさらりと流しておきましょう。

今日の本題は、上記のメールを出した昨年 11 月末から、日本医師会都道府県勤務医部会や北海道、石川県の医師会に呼ばれて、聴衆に問いかけていたこと。その問いの構造は、次のようにまとめることができる。

すなわち、医療介護の機能強化を図るためには、マンパワーと財源の両方を充実させることが不可欠である。ところがマンパワーと財源の調達は、景気動向との間に次の動かし難い関係がある。

表 1　医療介護機能強化の道筋問題

	好況期	不況期
マンパワー	調達困難	調達容易
財源	調達容易	調達困難

どのタイミングで、どのような手段を用いれば、医療介護の機能強化――マンパワーと財源調達の両方の調達――をはかることができるのだろうか？　それとも 2000 年の不況時に介護保険がはじまったときのように、再び、マンパワーだけをあてがって、今よりも一層労働条件が低いビジネスモデルを定着させる道を、この国は選択するのであろうか。

この問題を解く上で見落とされがちな条件は、医療介護は単年度のフローであって、今、医療介護を利用している世代が毎年使い切ってしまうが、公共事業はまがりなりにもストックを後世代に残す。

さて、あなたならこの問題をどう解く？